



おばけリンゴ

ヤーノシュ さく やがわ すみこ やく
福音館書店 1969年 1200円
32ページ 29×21cm

今まで一度も実がなったことがなかったワルターのリンゴの木に初めて1つ実がなりました。ワルターが大事に育てたそのリンゴは大きくなりすぎて市場でも売ることができません。ワルターは困ってしまいましたが、そのころ国をおびやかしていたリュウ退治にワルターのリンゴが役に立つことになるのです。

予想のできない展開で物語が進み、どんどん引き込まれていく絵本です。漫画風に描かれた顔の表情と文字の大小で、読んでいる子どもたちもワルターの喜びや悲しみを一緒に感じて楽しむことができるでしょう。



おふろだいすき

松岡 享子 作 林 明子 絵
福音館書店 1982年 1290円
37ページ 26×27cm

まこちゃんが、あひるのおもちゃのブッカを連れてお風呂に入っていると、お湯の中から、かめ、ペンギン、オットセイ、かば、くじらが次々に出てきました。競争したり、シャボン玉を作ったり、体を洗ったり、にぎやかです。くじらのシャワーで泡を流して、みんなお湯に入って数を数えました。でも、お母さんが来ると、動物たちはお湯に隠れたきり、出てきませんでした。湯上がりタオルにくるまると、いいにおい、いい気持ち。

暖かみのある黄色をバックに、まこちゃんや動物たちの表情がいきいきと描かれています。一人でお風呂に入れるようになった小さな男の子がめぐらせる空想の世界を、一緒に楽しんでください。